1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1 2 7 7 6 0 0 0 8 4
法人名	医療法人社団 寿光会
事業所名	グループホーム いきいきの家岬
所在地 (電話番号)	千葉県いすみ市岬町和泉330-1 (電 話) 0470-80-2051
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成19年12月21日

【情報提供票より】(平成19年 11月 22 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 15人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.7人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有() 円	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有○ 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	○有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.6 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岬病院(内科) 国吉病院(外科) 片倉歯科
---------	-----------------------

株式会社日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護老人保健施設 エスポワール岬の南側に、大きな屋根の平屋建てのグループホーム いきいきの家岬がある。建物の中央にある玄関を開くと、真正面に理念が掲げられ、その下には愛嬌があるふくろうの意見箱がおかれており、この施設のサービスの質の向上への取組みが感じられる。ここから建物が左右に分かれており各ユニットへの入口となっている。南に長い地形で採光は抜群である。庭にはウッドデッキが設置されており、ウッドデッキから見える風景は、一面緑に囲まれており自然に満ち溢れている。職員の年齢層が高いこともあり、生活感があり落ち着いたサービスを提供している。隣接する老人保健施設との連携で、リハビリ・医療の相談なども万全である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価後、職員で話し合い指摘された点についての改善に取り組んでいる。評価結果については、施設内に掲示されており、入居者の家族にも公開している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者が作成してはいるものの、出来上がった自己評価表を全ての職員に回覧をし、職員全員が参加をした自己評価となっている。今回の評価についても前回と同様に皆で評価を検討しサービスの向上につなげていきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	昨年、第1回目の運営推進会議を利用者家族・民生委員・区長・市の職員の方などを構成員として行っている。この時は、グループホームの概要について話し合いを行った。今回は、この外部評価の評価結果をもとに第2回の運営推進会議が行われることになっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居者の家族からの苦情は無いが、意見などは直接連絡をもらう事はある。意見・要望があった場合は、職員で話し合い、迅速に対応をしている。家族等からの要望を数多くいただくことが、サービスの向上につながると考えているので、今後は、家族等からの要望が出しやすい環境づくりを検討していきたいと思っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	立地条件上、隣近所の方々が入ってこられることは少ない。日々の散歩の時に、挨拶をしたり立ち話をしたりしている。地域の公民館祭り等に参加し、交流の幅を広げていければと考えている。隣接している老人保健施設・近くのケアハウスとの交流は盛んに行われている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の個性尊重と家庭的な生活の構築を主眼とした独自の理念をつくりあげている。		独自の理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を付加し、さらなる地域生活の継続支援と地域との関係性の強化を目指していただくことを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や会議等で定期的に理念の実践に向けた話し合いを行い、共有化を図っている。その上で職員全員が理念を意識したサービスの提供を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接している老人保健施設のデイケアの利用者との交流があり、お互いに行き来している。文化祭やコンサート等の地域行事などにも参加している。このごろは散歩中に馴染みの近隣の方に挨拶をすることも増えてきており地域との付き合いも少しずつ広がり始めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、管理者が作成してはいるものの、出来上がった自己評価票を全ての職員に回覧をしている。また、前回の評価後も職員で話し合い指摘された点についての改善に取り組んでいる。評価結果については、施設内に掲示されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年、第1回目の会議を開催し、事業報告や行事予定・医療連携加算などを含め、地域の方々にグループホームの概念の説明を行った。次回は、今回の外部評価結果をもとに議題を検討していきたいと考えている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家 岬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの連絡でキャラバンメイトに参加している。また、随時、市の介護保険課との連絡は取り合っており、事業運営の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、入居者の近況を盛り込んだ「いきいきの家岬だより」を発行している。だよりにはその月の行事の報告・翌月の行事予定なども入っており入居者の暮らしぶりがわかる様に工夫された紙面になっている。また、生活状況に変化があった場合は、その都度電話での連絡も行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱のふくろうポストが設置されているが、苦情等が投函されたことは無い。ご家族からの苦情は無く、寄せられた要望については、その都度、対応をしている。今後は、数多くの要望を出していただきやすい環境づくりをしていきたいと考えている。	○	今後、家族会の開催等により、多くの意見や要望が汲み取れる環境を整備し、信頼関係とサービスの向上につなげていただくことを期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員が入職した場合は、管理者が紹介をしている。入居者とのコミュニケーションが取れるようになるまでは、ベテラン職員との2人体制でケアを行っており馴染みの関係になるまでの配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修へ参加している。研修後は報告書を提出し、他の職員へ回覧をすることにより、職員全体のレベルアップを図っている。ミーティング時には、報告書をもとに勉強会が行われることもある。また、隣接している老人保健施設と合同での内部研修も行われており、職員の育成についての取り組みを進めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する老人保健施設の行事に数多く参加している。法人のいきいきグループ連絡会・地域のグループホーム連絡会と同業者との交流が多い。連絡会では、他のグループホームとの意見交換が行われ、サービスの質の向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族及び入居者と事前に何度か見学・面接を重ねながら馴染みの関係を築き、入居となることが多い。希望があれば体験入居も行われており、他の入居者との雰囲気馴染めるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者が同じ目の高さで接してくれることが多く、人への気配りの仕方を教えて貰っている。戦争の話・昔の話などを聞くたびに、考えさせられる事が多く、学ぶことも多い。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の希望については、質問の形式を変えながら本人の意向の把握に努めている。入居者の要望を聞き、本人本位に検討をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ユニットごとに職員全員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。介護計画は職員が常に見れるところに置いてあり、意見があれば記入できる形式をとっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回見直しをしている。また、変化があったときはその都度、ご家族の要望なども聞き、現状に即した介護計画が作成されている。</p>		

【千葉県】グループホームいきいきの家 岬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している老人保健施設のリハビリ設備を利用してリハビリ訓練を行っている。老人保健施設に常時医療スタッフが揃っていることから、医療面での相談などは万全である。また、入居者が病院に入院中は病院への面会・洗濯などの支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院への受診については職員の支援により定期的に行われている。協力病院以外の受診については、家族と一緒にしてもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについての取り組みは今のところ行っていない。入居時には、終末期についてのご家族の希望を聞き、グループホームの指針を説明している。医療行為を実施しない範囲でできる限りの対応をしたいと考え、現在検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報が入っている書類などは、鍵のかかる書庫に保管している。声かけについても、呼び名は全てさん付けに統一し、会話についてもプライバシーを損ねるような言葉について十分注意をした対応をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしには予定は無く、入居者の要望で毎日をごとて貰っている。その日の気分で散歩に出かける事もあれば、室内でぬりえ等をして過ごすこともあり、希望にそった支援を心がけている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家 岬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、カロリー計算が成されている栄養バランスのとれた宅配サービスを利用し、施設内で調理を行っている。入居者には仕上げの味付け・後片付けなどをしてもらっている。毎日のおやつ時は飲み物メニューがあり、各自で好きな飲み物を選んで飲むことが日課になっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望があれば毎日対応している。また、足浴等の支援も行っている。拒否があったときは、何度か声をかけ週3回は入浴できるよう心がけている。隣接している老人保健施設での機械浴槽での対応も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	十五夜には、皆なで団子を作りお月見をしたり、敷地内にある畑でトマト・ナスなどの農作物の栽培を行ったりしている。取り入れた洗濯を各自がたたむこともある。家族による三味線の演奏など、皆なでの楽しみごとを支援している。今後は、男性入居者の役割をもっと検討していきたいと考えている。	○	今後、男性入居者の役割を検討していただき、張り合いのある日々が過ごせるような支援につながることを期待しています。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの施設で行われるハーモニカコンサート・納涼会・文化祭などいすみ市の広報に掲載されている文化的な催しへの参加が多く見られる。日常的には近くのスーパーに買い物に出かけたり、定期的に外食会も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室に鍵は付いており、入居者が自由に開閉できるようになっている。玄関は、夜間は施錠しているが、昼間は施錠をしておらずセンサーで開閉を管理している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、隣接する老人保健施設と一緒に非難訓練を行っている。職員の災害が起きた場合の対応に関する意識も高い。隣接する老人保健施設との災害時における連携は図られてはいるが、地域との協力体制はできていない。今後は協力体制の構築を検討していきたいと考えている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家 岬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は、各入居者ごとに記録されており、必要な栄養が摂取できるように支援をしている。水分摂取量が少ない場合は、まめに声をかけ必要な水分量が補給できるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室には暖房が入っており、居室との温度差が感じられず快適である。南向き居間には、大きな窓からの太陽の光で冬でも暖かく過ごしやすい。また、庭にはウッドデッキがあり、外でお茶をすることも可能である。また、和室のスペースもあり、ここで洗濯をたたんだり昼寝をしたりと居心地の良い空間になっている。敷地の一角には畑があり、季節によっては多くの野菜が作		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者の馴染みの家具が持ち込まれ、希望で和室への変更も可能である。エアコンも各自で温度の調整をすることが可能で過ごしやすい居室である。		